

法説辻

岩手県曹洞宗布教師会三分間法話

仲良く・楽しく・元気よく

田野畑村・寶福寺住職 岩見百丈

私たちの曹洞宗では、お釈迦様の前に七人の仏様がおられたとされておりました、その七人に共通する教えとして「七仏通誡の偈」というものがあります。

その内容は、悪いことはしないように、良いことは進んでするように、そして心を清らかに保つように、というのですが、この教えにまつわる中国の逸話があります。

あの有名な詩人白樂天が烏窠道林といういわゆる禅宗の和尚さんに仏教の神髄を尋ねたとき、和尚さんが答えたのがこの「七仏通誡の偈」でした。そこで白樂天は「そんなことは三歳の子供でも知っているではないか」と言いました。する

と和尚さんは「三歳の子供が知っていることでも七十歳のおじいさんにも実行するのは難しいよ」と答えたというのです。

これと似たような話を最近聞きました。私の親しいある和尚さんが、お檀家さんから「仏教の真髄を示すような教えを何か一言で教えて下さい」といわれて「仲良く・楽しく・元気よく」と答え、その方から「それって、小学一年生の教室の黒板に書いてある言葉じゃないか」と言われたというのです。

さあ、小学一年生の子供にはこうしなさいと黒板に書いてある言葉を、大人はちゃんと実行出来ているのでしょうか。こうお話しす

る私自身も、だいぶ耳が痛い気がいたします。

道元禪師の教えに、どんな正しい教えでもそれを実行しなければ意味がないのだというものがあります。また、「子供は親の背中を見て育つ」ということわざがあります。このことわざの意味する「親」というのは、子供にとっての大人のすべてのことですよ。

「この頃の子供は…」と色々批判的な言葉を耳にしますが、それって「この頃の大人は…」ということになりますね。

「仲良く・楽しく・元気よく」、いい言葉だと思いませんか。この社会小学校の一年生になって、まず大人の私たちが実行しませんか。

曹洞宗岩手県宗務所

テレホン法話

☎ 0198-62-1121

ほとけに
出会う

心に残る

法話を

お聞き

下さい